

2. 取組を進めるに当たり困難であった事例について

E. 学習・研究環境の改善

③昼夜開講、休日開講などによる社会人学生等への履修上の配慮

《医療系》

●群馬大学医学系研究科保健学専攻

「地域・大学院循環型保健学リーダーの育成」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

「地域保健学研究プロジェクト」を実施していく上で、学生の所属機関における共同研

究体制の構築および教員が職場に赴いて研究指導を行う体制が十分ではなかった。

(苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

本プログラムが実質的には支援期間が2年半で、さらに「地域保健学研究プロジェクト」は新生を対象としているため、支援期間の2、3年目のみの実施となった。本プロジェクトは新しい取り組みであり、開始から2年間という短期間で、本プロジェクトを通じた、大学と地域保健医療機関との共同研究体制がまだ十分には機能していないことによると考えられた。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

本プログラムを教育課程のひとつとして長期に継続すること、さらに、広報活動を通して、地域の保健医療機関に本プロジェクトの意義や実施体制を十分に周知していくことが重要である。また、教員側にも本プロジェクトの趣旨を周知、徹底して地域保健医療機関との研究協力体制を強化することが必要である。